

DRI 調査レポート No. 18, 2007

2007(平成19)年3月 能登半島地震現地調査報告(速報)

2007年3月29日現在

概要

平成19年3月25日9時42分頃、能登半島沖の深さ11kmを震源とするマグニチュード(M)6.9の地震が発生した。この地震により北陸地方を中心に強い揺れが各地を襲い、石川県の七尾市、輪島市、穴水町で震度6強を記録した。また、この地震により、死者1名、負傷者193名、住家全壊68棟、住家半壊164棟などの被害が生じる地震災害となった(27日8時30分現在)。

人と防災未来センターでは、3月25日(日)～26日(月)の2日間にわたり、震度6強を記録した石川県輪島市に、近藤伸也専任研究員、川西勝研究調査員、平澤雄一郎事業課長を派遣し、被害状況の調査を行った。

調査概要

日程：2007年3月25日(日)～26日(月)2日間
メンバー：近藤伸也専任研究員、川西勝研究調査員、平澤雄一郎事業課長

調査行程：

- 3月25日 石川県庁
- 26日 輪島市門前町周辺現地調査、輪島市門前総合支所、輪島市役所

地震の概要(3月27日8時30分現在、消防庁、平成19年(2007年)能登半島地震(第16報))

発生日時：2007年3月25日9時42分頃
震央地名：能登半島沖(北緯37.3度、東経136.5度)

震源の深さ：11km

マグニチュード：6.9

震度 震度6強 七尾市、輪島市、穴水町
震度6弱 志賀町、中能登町、能登町
震度5強 珠洲市

津波情報 9時43分 津波注意報発表
金沢市 20cm(11時08分)
珠洲市長橋 20cm(11時13分)
11時30分 津波注意報解除

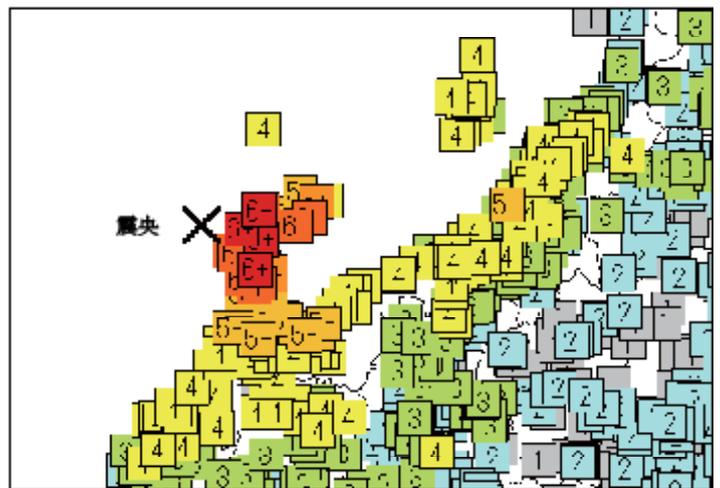


図1 能登半島地震の震度分布
(気象庁、平成19年3月25日11時15分)



図2 現地調査行程(国土地理院災害概況図(第3報))
「2007年3月25日18時現在」



写真1 被害を受けた木造家屋 (輪島市門前町館地区)



写真2 完全に倒壊した木造家屋
(輪島市門前町道下地区)

地震の被害概要(3月27日8時30分現在、消防庁、平成19年(2007年)能登半島地震(第16報))

- 人的被害 死者1人(石川県1人)、
重傷者24人(石川県22人)、
軽傷者194人(石川県179人)
- 建物被害 全壊59棟、半壊186棟、
一部破損642棟(石川県639棟)
- 火災 建物0件、危険物0件、その他0件
- 避難 避難勧告(石川県) 3世帯 4人
自主避難 1918人(43ヵ所)

調査内容

(1)建物被害

輪島市門前町の館地区、道下地区は震源地近傍かつ八ヶ川河口近くに位置しており、建物被害が大きかった地域である。このあたりはほとんどの家屋が木造であり、道路側の玄関や縁側から壊れている事例が多く見られた(写真1)。一部には写真2のように完全に倒壊した家屋もあり、道路を閉塞していた。そのため消防と警察で道路啓開作業を行っていた(写真3)。写真3の建物は余震によって倒壊したそうである。被災地は冬に積雪があり建物に太い柱を用いる地域であるために、写真4のように適切に維持管理がされている家屋は被害が軽微であった。建物被害の多さと比較して人的被害が小さかったが、午前中の住民が活動している時間帯に発生したこと、当時、周辺では雪割草まつりが開催されていたために、住民の多くが外出していたことが原因として考えられる。



写真3 倒壊した家屋の道路啓開作業
(輪島市門前町道下地区)

(2)土砂災害による孤立集落の発生

被災地は中山間地域であったため、土砂災害による道路閉塞によって輪島市門前町深見地区をはじめとした孤立集落が発生した。深見地区につながる海岸からの道路を調査したところ、集落近くに写真5にある斜面全体が滑って道路を閉塞している箇所があり、この道路の早期復旧が難



写真4 被害が軽微だった木造家屋
(輪島市門前町館地区)



写真5 深見地区付近の土砂災害現場



写真6 輪島市門前町深見地区の状況

しい印象を受けた。その場所から深見地区を俯瞰したところ、大きな被害は見られなかった（写真6）。地区の住民は門前西小学校に集団避難したが、一部は集落に残っている。避難所で住民に様子を伺ったところ、帰ることができる時期など見通しを示してほしいとのことだった。

(3) 石川県庁

石川県では消防防災課が災害対策本部事務局として対応していた。事務局では消防防災課職員の他に陸上自衛隊、総務省消防庁、北陸電力、石川県警などから派遣された職員が対応していた。事務局は通常の執務室をそのまま使用しており、情報収集、意思決定などの役割分担が明確になっておらず、現状の状況把握に苦勞されていた（写真7）。報道記者への対応は部屋の入り口で行い、部屋の内部には立ち入らせないようにしていた。



写真7 石川県災害対策本部事務局

また第5回災害対策本部会議を傍聴した（写真8）。会議は完全公開型であり、報道記者も多数傍聴していた。内容は各部局からの簡潔な状況報告が中心であり、今後の見通しを報告した部局はわずかであった。また陸上自衛隊、総務省消防庁、気象庁、北陸電力、NTTからの報告もあった。報告終了後には知事からの訓示、指示があり、その後は報道記者による知事、事務局長への取材が行われていた。



写真8 第5回石川県災害対策本部会議



写真9 輪島市災害対策本部



写真10 記者発表（輪島市役所）



写真11 輪島市門前総合支所通常業務スペース

(4) 輪島市役所

輪島市役所の建物には被害がなく、通常業務も行われていた。1階には被災市民向けの相談窓口が設置されていた。災害対策本部は3階の大会議室に設置されており、「情報収集班」「情報整理班」「情報指示班」の3グループで対応していた（写真9）。政府の現地連絡対策室は対策本部の隣の部屋に設置されており、自衛隊、内閣府、国土交通省、厚生労働省から連絡員が派遣されていた。

報道記者には別室を用意しており、30分～1時間半程度の間隔で記者発表を行っていた（写真10）。そのため本部に記者が取材に入ってくることはなかったが、発表内容が今後の対応方針ではなく現状報告が中心になったために、記者からの質問も細かな部分に対する事実確認に終始し、担当者はその対応に苦慮していた。



写真12 輪島市門前支所現地対策本部

(5) 輪島市門前総合支所

輪島市の門前総合支所では建物に耐震補強がなされていたので、震源地近傍であったにもかかわらず被害はなかった。しかし通常業務を行うスペースは机と書類の散乱により使用できなかった（写真11）。現地対策本部は3階の研修室に設置されており（写真12）、総務課長の話では断水が一番の問題とのことだった。また本部には支所の職員の他に自衛隊も入っていた。門前町には行政無線が配備されており、住民への連絡に用いていた。報道記者には別室を提供して対応していた。

最後に、被災者の方々にお見舞い申し上げ、一日も早い復旧・復興の実現をお祈り申し上げるとともに、調査にご協力いただいたすべての方々に御礼を申し上げて本報告の結びとしたい。

 <p>DRI</p>	<p>DRI 調査レポート No. 18, 2007 (2007年3月29日現在)</p> <p>財団法人 ひょうご震災記念 21世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター</p> <p>〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 TEL : 078-262-5060, FAX : 078-262-5082</p>
--	--